

社会医学系専攻

人材養成および教育研究上の目的

社会医学系専攻においては、疾病と環境や内因的な要因との関係を理解するために高度な専門的知識及び技術を有し、医学の発展に寄与する優秀な人材を養成することを教育の理念とする。疫学・公衆衛生学、予防医学、犯罪医学、精神医学等の各分野において、社会医学的な実験手技・手法を修得し、人の発生から成長、老化、死に至る過程における人と疾病の関わりを研究できる教育・研究者を養成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

入学選考にあたっては、意欲および多様性を有する人材を求める。

- 1) 医療や医療関連領域の社会的、心理的、生物学的な知識を探究したい人
- 2) 医学部出身のみならず、広く医療に携わる人
- 3) 多面的な考え方で医学研究を遂行できる人
- 4) 情報収集、情報交換に必要な国際言語である英語の能力を有する人
- 5) 論理的な推論の能力を有する人

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

社会医学系専攻には、予防医学・公衆衛生学、犯罪医学、精神科治療学の3専攻科があり、院生はいずれかの専攻科のもとで研究を開始する。

本専攻は、人間がヒト社会に属することによって誘発される傷病や環境保健上の傷害あるいは疾病発症に対する社会環境的な要因について理解し、社会医学的な研究方法、法医学的な研究法、精神医学的な研究法を学習する。

本専攻は、以下の項目を重視してカリキュラムや講義を編成する。

- 1) 基礎知識・技術
 - ・疫学、質的研究、EBMの方法を身に付ける。
 - ・医療情報分析や医療経済、医療政策を学ぶ。
 - ・症例（剖検）を通して、多様化する巧妙な現代の犯罪に対処する方法を取得する。
 - ・社会の精神病理や、精神疾患の治療に関して生物学的のみならず社会的な視点を養う。
- 2) 応用
 - ・がんや循環器疾患、感染症の疫学や予防に関する考え方を取得する。





- ・人間が環境・社会要因を制御することにより、病気を予防し、現在の長寿社会を築きあげた歴史と方法を知り、病気と環境要因の関係について分析し、個人と社会がさらに健康になるように働きかける方法論を身に付ける。
- ・現代型犯罪に対処する方法、すなわち、法医病理学、法医中毒学、血液型・DNA鑑定について学習し、これらの結果から総合的に判断する能力を育成する。
- ・精神疾患の発生や予防、治療に関して、生物学的な視点だけでなく、心理社会的な視点から考える統合的なアプローチの方法を取得し、社会の中での精神疾患の治療やリハビリテーションについて研究する。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士課程では、その教育理念や目的に即する人材を育成するため、各教育課程で必要な単位を修得し、当該分野の専門誌に公表あるいは採択された論文に対する公開審査に合格した者に学位を授与する。なお修了にあつては、以下の点に達していることを目安とする。

- 1) 医科学の分野で広く活躍するのに必要な幅広い知識・技能と問題解決能力を有する。
- 2) たゆまぬ自己研鑽によって、より高度な知識・技能や倫理観を身に着け、医学研究の発展に寄与できる姿勢を有する。
- 3) 国際社会や地域社会に積極的に貢献する意欲や実践力を有する。

